

第2学年1組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 赤岡玲子

1. 題材名 「幼児の生活と家族」 A (3)

2. 題材について

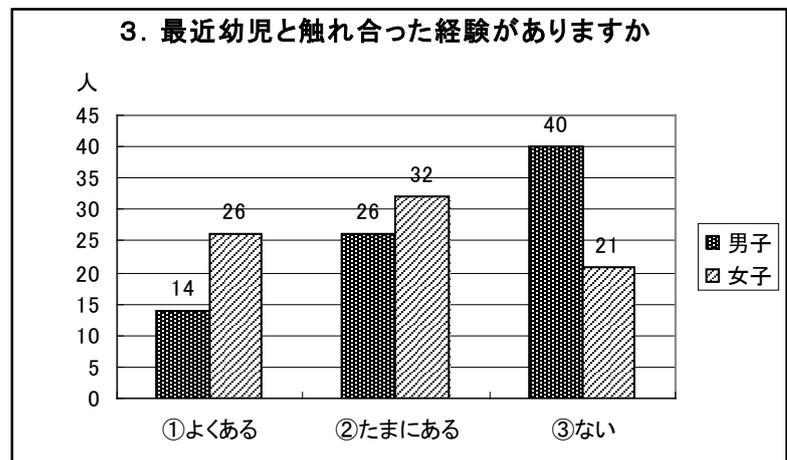
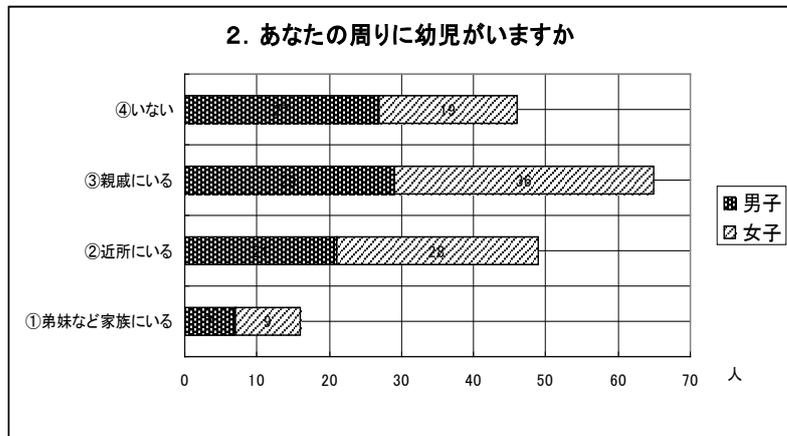
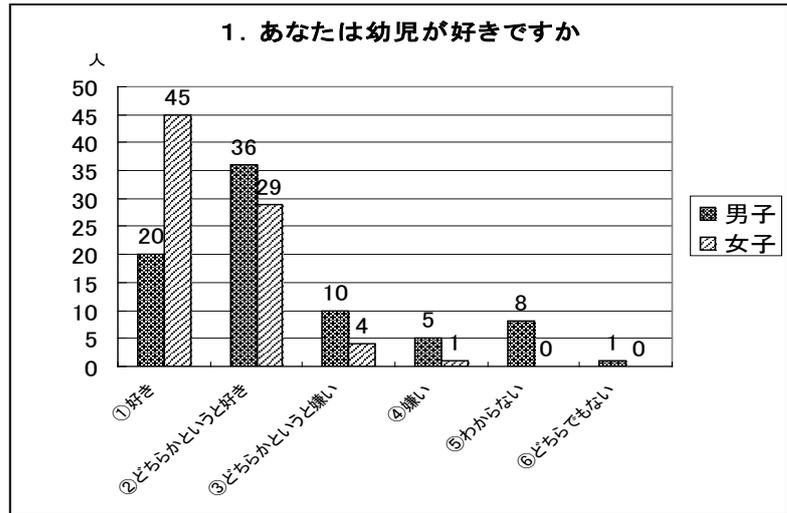
(1) 生徒の実態, 学習歴

学習を始めるに当たって、2学年159名（前期履修クラス：4月，後期履修クラス：10月）に昨年と同様の学習内容に関する事前調査を行ったところ、次のような実態が明らかとなった。

まず、「あなたは幼児が好きですか。」という質問に対して、「①好き」「②どちらか」といって好きと答えた生徒は130名（81.8%）であり、昨年度（67%）を大きく上回っていた。その理由は、「かわいいから、無邪気で純粹だから、素直だから、言動がおもしろいから」などであった。反対に「③どちらか」といって嫌い「④嫌い」と答えた生徒は20名（12.6%）であり、その理由は、「言葉が通じなさそうだから、いろいろ面倒、対応に困るから、あまり関わったことがないから、生意気なときがあるから」などであった。また、身近に幼児がいない、触れ合ったことがない、などの理由で「⑤わからない」と答えた生徒は8名（5.0%）、「⑥どちらでもない」が1名（0.6%）であった。

次に、「あなたの周りに幼児がいますか。」という質問では、「①家族にいる」16名、「②近所にいる」49名、「③親戚にいる」65名、「④いない」46名であり、昨年とほぼ同様の傾向であった。周りに幼児がまったくいない者の割合は28.9%と、は昨年の26.9%より若干増えていた。

また、「最近（ここ1年くらいの間に）幼児と触れ合った経験がありますか。」という質問に対しては、「①よくある」40名（25.2%）、「②たまにある」58名（36.5%）、「③ない」61名（38.3%）であり、昨年とほぼ同様の傾向であった。昨年と比較すると、幼児に対して「好き」という気持ちをもっている生徒は増えているのであるが、中学生が日常的に幼児と触れ合ったり、一



緒に遊んだりするという機会はやはり非常に少なく、そのために「苦手」という意識をもってしまっている生徒も少なくないようである。

これからの授業についての興味・関心をたずねたところ、「①とてもある」「②どちらかというところある」137名(86.2%)、「③どちらかというところない」21名(13.2%)、「④全くない」1名(0.6%)であり、幼稚園で幼児と触れ合う授業については、「①楽しみである」「②どちらかというところ楽しみである」139名(87.4%)、「③どちらかというところ行きたくない」13名(8.2%)、「④行きたくない」1名(0.6%)、「⑤わからない」6名(3.8%)であった。全体的には興味・関心が昨年よりも高く、幼児との触れ合い学習を楽しみにしている生徒が増えているのであるが、1割強の生徒が、幼児について学習する意義が見いだせなかったり、具体的なイメージが持てなかったり、幼児に対するネガティブなイメージや感情から、これからの授業に対して不安や嫌悪を示していた。

男女別では、やはり男子より女子の方が幼児に対して親和的な感情を抱いており、幼児の学習への興味・関心も女子の方が高くなっていた。昨年度、山梨大学の岩瀬の研究では、本校生徒が幼児との触れ合い学習を通して、「自分が成長する」等の5項目において男女の認識の差が小さくなったと報告しており、そのあたりも分析対象として加えたいと考えている。

後期家庭科を履修する生徒は、これまで、1年生で「B 食生活の自立」「C 衣生活・住生活の自立」を学習しており、「A 家族・家庭と子どもの成長」の学習は初めてである。前期は技術分野を履修し、10月第2週より後期の学習がスタートしたところである。前期家庭科を履修した2クラスを振り返ると、どちらのクラスも毎時間の家庭科の授業に臨む姿勢は非常に意欲的であった。事前調査ではネガティブな回答をしていた生徒たちも、授業を重ねるごとに徐々に意識や気持ちに変容が見られ、幼稚園訪問やおやつづくり交流会では、幼児の気持ちを考え一生懸命に触れ合おうとする姿がみられた。

(2) 題材観

今回の指導要領改訂においては、改正学校教育法の施行、少子高齢化や家族の機能が十分に果たされていないなどの状況に対応し、家族・家庭と子どもの成長に関する内容が一層充実されることになり、「A 家族・家庭と子どもの成長」の区分が設けられた。また、改訂の基本的な考え方の「⑦豊かな心の育成」のためには、他者との直接的なかわりが重要であるとの指摘もあり、これまでは興味・関心等に応じた内容であった「幼児との触れ合いとかわり方の工夫」「高齢者などの地域の人びととのかかわり」が、すべての生徒が履修する内容に改められた。さらに、家族関係や幼児の生活に関する課題選択学習が新たに設けられている。

中学校学習指導要領解説(技術・家庭編)の中で、「A 家族・家庭と子どもの成長」について、「幼児との触れ合いや家族・家庭に関する実践的・体験的な学習活動を通して、幼児に関心を持たせるとともに、自分の成長や家族・家庭、幼児の発達と生活について関心と理解を深め、家族や幼児に主体的に関わることができるようにする。また、これらの生活を展望して、課題をもって家庭生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることをねらいとしている。」とある。

本校では、附属幼稚園との連携により、選択領域であった「幼児との交流」を継続的に行ってきた。具体的には、幼児を実際に観察し、発達段階や幼児の生活について学んだ後、幼児のためにおもちゃを製作し、製作したおもちゃを利用して幼児と触れ合い遊ぶ、というものである。幼児と実際に触れ合い、求められて一緒に遊んだり、幼児に頼りにされたりする体験は、幼児を知り、幼児との接し方を学ぶことができるだけでなく、生徒の自己肯定感・自己有用感を高めることにもなる。換言すれば、幼児と関わることで、これまでの成長を振り返り、現在の自分を見つめ、将来の自分を展望する、といった自己理解・自己認識の機会ともなるのである。

昨年度は、交流体験活動をより一層充実させるために、これまでの交流に加え、発展的な内容として「幼児と一緒におやつを作ろう」という課題選択学習を設定した。幼稚園での交流から学んだことを生かし、少人数の特定の幼児との触れ合いを経験することにより、より深く幼児を理解するとともに、幼児ひとりひとりの個性や親の願いなどにも触れさせたいと考えたからである。昨年度の実践を質的に分析した結果、「おやつ作り」の課題が難しかった分、〈不安感〉や〈難しさ〉の記述が増えていたが、その分〈達成感〉〈喜び〉も大きくなっていったことが明らか

となった。また、公開研究会、事後報告会の折には、参加者や研究協力員の先生方、指導助言の先生方から、互恵性のある有意義な交流ができたというたくさんのご意見をいただいた。

しかし、「かかわりを見いだす活動」という点では、もう少し幼児の学習を通して「今までの自分」「現在の自分」「これからの自分」を見つめること、幼児の成長の陰にはたくさんの家族・親の願いや思いがあることなどにも気付かせたい。また、幼児に対する苦手意識や、経験不足からくる不安感を解消した上で、よりよい交流ができるような学習過程を工夫したい。

(3) 指導観

指導に当たっては、本校の研究主題『知の再構成を目指して～「かかわり」を生かした学習過程の工夫～』を踏まえ、教材の中に潜む「かかわり（学習内容の関連性）」に教師自らが着目し、実践的な活動や作業、討論、実験など、家庭科の特性を生かした学習過程を工夫するとともに、生徒自身がそれらの「かかわり」を自ら見いだすことができるような指導方法を提案していきたいと考える。

また、中学校学習指導要領解説（技術・家庭編）の中で「小学校家庭科で学習した『A 家庭生活と家族』の内容（1）『自分の成長と家族』、（2）『家庭生活と仕事』、（3）『家族や近隣の人びとのかかわり』に関する基礎的・基本的な知識と技能などを基盤にして、適切な題材を設定し、相互に関連を図り、総合的に展開できるように配慮する。」とあるように、これまで学んできたことを生かしながら生徒が自ら課題を見だし、それを改善する工夫を考えるなど、これからの生活を展望して、課題をもって幼児の生活をよりよくしようとする意欲と態度を育てるように配慮したい。

そのための具体的な手だてとして、今年度も2回の幼稚園児との交流をより充実させるとともに、幼児との交流により多くの視点をもって臨めるよう、授業展開やワークシート、振り返りカードを工夫していきたい。また、学習を始めるに当たって、子育てを行っている母親から話を聞き、子育ての喜びや苦勞、親の願いに触れるとともに、幼児への具体的なイメージをもって、「幼稚園訪問」「幼児とのおやつ作り」の交流学习へとつなげていけるように工夫したいと考えた。それにより、幼児の学習を「幼児理解」の場としてだけでなく、家族を思い、過去の自分、現在の自分を見つめ、将来の自分を展望する大切な機会であることに気づかせたい。

4. 題材の指導計画 [A－(3) アイウエ]

全24時間

	学 習 項 目	時 間
幼 児 の 生 活 と 家 族	①生命誕生と家族の役割	2
	②子育て中のお母さんから学ぼう（本時）	1
	③幼児の心身の発達と幼児期における遊びの意義	2
	④幼児の喜ぶおもちゃの製作	5
	⑤幼児との触れ合い交流会①～幼稚園で幼児と遊ぼう～	4
	⑥幼児期の食生活の特徴とおやつ	2
	⑦幼児に適したおやつの実習	2
	⑧幼児との触れ合い交流会②～幼児と一緒におやつをつくろう～	5

5. 題材の目標（指導事項）

「(3) 幼児の生活と家族」について、次の事項を指導する。

- ア 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解すること
- イ 幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児の遊びの意義について理解すること
- ウ 幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫できること
- エ 家族または幼児の生活に関心をもち、課題をもって家族関係又は幼児の生活について工夫し、計画を立てて実践できること

6. 題材の評価基準 「A (3) 幼児の生活と家族」

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
<p>・幼児の生活と家族について関心をもって学習活動に取り組んでいる。</p> <p>・幼児の遊びや食生活と家族とのかかわりについて考えようとしている。</p>	<p>・幼児の遊びや食生活と家族とのかかわりについて課題を見つけ、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。</p>	<p>・幼児の発達と家族に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。</p> <p>・幼児の遊びや食生活について考え、幼児の発達に応じた遊び道具やおやつを製作できる。</p>	<p>・幼児の遊びや食生活と家族とのかかわりに関する基礎的・基本的な知識を理解している。</p>

7. 学習活動における評価規準 「(3) 幼児の生活と家族」

	ア 生活や技術への 関心・意欲・態度	イ 生活を工夫し 創造する能力	ウ 生活の技能	エ 生活や技術についての 知識・理解
①	<p>生命の誕生に関心を持ち、生い立ちの記録をまとめることから、多くの人との関わりの中で成長してきたことに気づく。</p>	<p>ゲストティーチャーから学んだことを、これからの幼児との交流に生かすための工夫を考えている。</p>	<p>幼児の遊びや幼児の発達について、観点に基づいて観察し、整理することができる。</p>	<p>生命の誕生と、乳幼児の発達を支える家族の役割(子どもの保護・情緒の安定・社会化)について理解している。</p>
②	<p>子育て中のお母さんの講話を聞き、子育てに関心をもってかかわろうとしている。</p>	<p>幼児の心身の発達に応じた遊びやおもちゃ、遊び方について考え、工夫している。</p>	<p>新聞紙を使った楽しい遊びを考え、班で協力して楽しく遊ぶことができる。</p>	<p>幼児の心身の発達(身体の発育・運動の機能・言語、情緒、社会性)について、基礎的・基本的な知識を理解している。</p>
③	<p>幼児期の遊びやおもちゃ、幼児の遊びと発達とのかかわりについて関心を持ち、考えようとしている。</p>	<p>幼児の心身の発達に応じたかかわり方について、観察したことを生かして考え、工夫している。</p>	<p>対象児の発達段階を考え、対象児にふさわしい遊び道具を製作することができる。</p>	<p>幼児にとっての遊びの意義について理解している。</p>
④	<p>幼児の遊び道具の製作を通して、幼児とのふれあいに関心を持ち、幼稚園訪問における課題を見つけようとしている。</p>	<p>幼児期のおやつを意義を考えて、幼児期にふさわしいおやつを工夫して作ることができる。</p>	<p>幼稚園で幼児の気持ちを考え、場に応じて発達段階を考えながら、適切に幼児と接することができる。</p>	<p>幼児期の食生活の特徴と、幼児期におけるおやつの意味について理解している。</p>
⑤	<p>幼稚園で幼児と触れ合う活動を通して、幼児に関心を持ち、適切にかかわろうとしている。</p>	<p>幼児の気持ちを考え、場に応じて修正しながら適切な接し方を工夫することができる。</p>	<p>幼稚園訪問で体験したことを、整理してまとめ、発表することができる。</p>	

⑥	感謝の気持ちを込めて、幼稚園にお礼の手紙を書こうとしている。	ウェビング図を用いて、幼児との交流学习の意義を工夫創造して考えることができる。	対象児の特徴を考えて、対象児にふさわしいおやつ作りの計画を立てることができる。	
⑦	幼児の食生活に関心をもって、おやつの比較実験に主体的に取り組んでいる。		幼児との触れ合い体験をまとめ、学んだことやこれからに生かせることを考えることができる。	
⑧	幼児のおやつ作りに関心をもって取り組んでいる。			
⑨	おやつ作りについて、対象児との打ち合わせに積極的にかかわろうとしている。			
⑩	幼児とおやつ作りについて、自分なりの課題をもって、積極的に触れ合おうとしている。			

8. 各時間における指導と評価の計画（全23時間）

時間	ねらい	学習活動	評価				留意点・評価対象など
			関意	工創	技能	知識	
1 2	・生命誕生から乳児期までの成長について理解する。 ・自分の成長について調べたことをまとめ、家族の役割を考えることができる。	生命誕生と私たちの成長 ・砂粒大の受精卵から、出産までの過程をビデオで観察し、気付いたことや感想をまとめる。 ・自分自身の誕生とこれまでの成長を調べてまとめ、家族や周囲の人々とのかかわりを考える。	①			①	・砂粒 ・ビデオ教材「私たちが生まれるまで」 評価：ワークシート 学習ノート
3	・子育て中の母親の話を聞き、子育ての喜びや苦勞、親の願いに気づくことができる。 ・幼児に対する具体的なイメージを持ち、これからの幼児との交流に生かす視点を挙げるができる。	子育て中のお母さんから学ぼう ・子育て中の母親とその子どもをゲストティーチャーとして招き、ミニ講話を聞く。 ・講話を聞いて疑問に思ったことや、もっと知りたいことを質問する。 ・これからの幼児との交流学习を進める上での視点を考える。	②			①	・ゲストティーチャーによるミニ講話 ・出産時のビデオ、産声 評価：ワークシート 観察
4	・幼児期の心身の発達について理解し、発達に応じた適切な対応を考えること	幼児期の心身の発達 ・幼児の遊びの様子をビデオで観察し、発達段階による遊び、ことば、友だちとのかかわりなどをまとめる。				①	・幼児の遊びの様子を撮したビデオ ・幼児期の心身の発達についての資料

	・幼児のおやつ作りに関心をもって取り組む。	・幼児が喜ぶような盛りつけ方を工夫する。	⑧			観察
19 20	・対象児の特徴を知り、対象児にふさわしいおやつ作りの計画を立てることができる。 ・対象児との打ち合わせに積極的にかかわろうとしている。	おやつ作り交流会の計画を立てよう ・対象児（幼稚園年長児）の保護者へのアンケートをもとに、対象児の発達段階や特性、保護者の願いを知り、対象児にふさわしいおやつを考えて計画を立てる。 ・対象児との打ち合わせを行い、対象児の意見を取り入れて、計画を修正する。	⑨		⑥	・幼児のおやつ資料、レシピ集 ・保護者アンケート ・対象児来校 ・ランチマットづくり 評価：ワークシート 観察
21 22	・おやつ作りを通して、幼児と積極的に触れ合うことができる。 ・幼児の気持ちを考え、場に応じて修正しながら適切な接し方が工夫できる。	幼児と一緒におやつを作ろう（おやつ作り交流会） ・班ごとに対象児と一緒におやつ作りを行う。 ・作ったおやつと一緒に食べながら交流する。	⑩		⑤	・対象児来校 ・安全面、衛生面に留意 ・班ごとに、対象児を迎えてのおやつづくり実習 評価：作品（おやつ） 観察
23	・幼児との触れ合い体験をまとめ、学んだことやこれから生かせることを考える。 ・ウェビング図を工夫し、幼児との交流学习の意義を考える。	交流会を振り返り学習のまとめをしよう ・ワークシートによるおやつ作り交流会のまとめを行う。 ・ウェビング図を用いて、幼児の学習からの様々な視点への広がりを見つけ、幼児との交流学习の意義についてもう一度考える。			⑦ ⑥	・ウェビング図 評価：ワークシート 学習振り返りシート ウェビング図の記述

9. 本時の授業

(1) 日 時 平成22年10月23日（土）

(2) 場 所 山梨大学教育人間科学部附属中学校 南館2階 家庭科室

(3) 題材名 「子育て中のお母さんから学ぼう」

(4) ねらい ・子育て中の母親の話聞き、子育ての喜びや苦勞、親の願いに気づくことができる。
・幼児に対する具体的なイメージを持ち、これからの幼児との交流に生かす視点を挙げるができる。

(5) 本時における評価の計画

規 準	十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する生徒への支援
関心 意欲 態度 ②	◎子育てについて関心を持ち、質問をしたり、幼児と積極的に触れ合おうとしたりするなど、意欲的に関わろうとしている。	○子育て中のお母さんの講話を聞き、子育てについて関心を持ってかかわろうとしている。	△講話の内容を聞いてメモを取るよう促し、前時に考えた質問を思い出させる。
工夫 創造 ①	◎ゲストティーチャーから学んだことを、これからの幼児との交流に生かすための工夫を複数の視点から具体的に考えている。	○ゲストティーチャーから学んだことを、これからの幼児との交流に生かすための工夫を考えている。	△前時の学習、これから行う幼児との触れ合い学習と、自分自身とのかかわりを考えさせる。

(6) 展開

「子育て中のお母さんから学ぼう」

進	学習活動及び生徒の活動	教師の支援	指導上の留意点・評価
事前の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーへの質問事項を考えておく。(前時) ・手洗いを済ませておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーとの打ち合わせを行う。 講話内容について 予想される生徒からの質問事項 授業の流れ など 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習形態の工夫 (身近に触れ合える工夫) ・ゲストティーチャー用の椅子等の準備 ・衛生面には十分に留意する。 (教室の衛生, 生徒の手洗い)
課題の把握 5分	<ul style="list-style-type: none"> ①学習内容の確認 前時の学習内容を想起し, 本時の学習内容, 目標を確認する。 ②ゲストティーチャーとその子どもを迎える。 ・拍手で迎える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容, 目標を確認させる。 ・簡単にゲストティーチャーについて紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーとその子どもは, 来校したら家庭科研究室に入って待機している。 ・ワークシート配布 (前時に質問事項を記入したもの) ・クリップボード
課題の追 求 35分	<ul style="list-style-type: none"> ③ゲストティーチャーによるミニ講話 (20分) 「子どもを産み, 育てるということ」 ・メモを取りながら講話を聞く。 ④ふれあいタイム (15分) ・ゲストティーチャーに質問しよう ・子どもと触れ合ってみよう ・感想を発表しよう ・ゲストティーチャーとその子どもにあいさつを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像や写真を見せながら, 次のような内容で話をしていただく。 ○自己紹介 ○出産のときの様子や気持ち ○名前の由来 ○子どもの成長の様子 ○毎日の生活 ○子育ての喜びや苦勞 ○父親の役割 など ・事前に考えておいた質問を各班から出すようにする。 ・子どもとの触れ合いは, 子どもの様子を見ながら無理のない範囲で行う。 ・クラスの代表者によるお礼のあいさつ ・ゲストティーチャーとその子ども退室 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター, ノートPC テレビ, ビデオの準備 ・講話中の子どもの様子に注意し, 必要に応じて補助を行う。 ・講話の流れに合わせて適宜ビデオをON, OFF 【評価】(関・意・態) ② 観察 ワークシート ・2人は家庭科研究室へ
ま	⑤ミニ講話を聞いての感想をまと		

<p>と め 10 分</p>	<p>め、発表する。</p> <p>⑥これからの学習（幼児との交流）に向けて、本時の学習をどのように生かしていけるか、視点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する。 ・発表する。 <p>⑥振り返りカードに、本時の授業の感想記入（表面）および、ウェブページへの記入（裏面）を行う。</p> <p>⑦次時の学習内容の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数名に発表させる。 ・14年前の自分、14年後の自分についても考えさせる。 ・これからのおもちゃづくり、幼稚園訪問、幼児とのおやつ作りに向けて、どのような視点をもって臨むかを具体的に考えさせる。 ・数名に発表させる。 ・班ごとに回収する。 ・次時は、幼児の心身の発達について学習することを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート <p>【評価】（工夫創造）② ワークシートの記述 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカード
---	---	---	---

【ゲストティーチャーについて】

氏名：市來 渚 先生

概要：山梨大学大学院を修了後、平成20年度、本校にて1年間家庭科の教師として勤務。その後結婚し、現在は満1歳になる男児（隼人くん）を育てている。